

Ⅲ. 進まぬ自助努力準備、低下する充足感

① “公的保障だけではまかなえない” とする割合が増加する一方で、自助努力での経済的準備割合は微増

“公的保障だけではまかなえない” という意識が高まるなか、自助努力による経済的準備の状況を尋ねた。

その結果、生命保険や個人年金保険、預貯金や有価証券など何らかの手段で準備している割合は、「医療保障」が 82.0% で最も高く、次いで「死亡保障」72.4%、「老後保障」59.4%、「介護保障」41.2%の順となっている。

前回結果と比較すると、公的保障への期待意識が低下する中であって、「医療保障」が 2.7ポイント増加しているが、これを除けば大きな変化はみられなかった。

図表 5 自助努力による経済的準備（「準備している」の割合）

（単位：%）

| | 医療保障 | | | 老後保障 | | | 死亡保障 | | | 介護保障 | | |
|------|-------|-------|---------|-------|-------|---------|-------|-------|---------|-------|-------|---------|
| | 平成16年 | 平成19年 | 19年-16年 |
| 全体 | 79.3 | 82.0 | ↗ 2.7 | 61.5 | 59.4 | -2.1 | 70.8 | 72.4 | 1.6 | 39.2 | 41.2 | 2.0 |
| 20歳代 | 58.0 | 61.1 | 3.1 | 33.9 | 33.5 | -0.4 | 44.8 | 47.6 | 2.8 | 14.7 | 17.0 | 2.3 |
| 30歳代 | 82.3 | 83.3 | 1.0 | 56.3 | 54.5 | -1.8 | 74.1 | 73.7 | -0.4 | 27.0 | 27.5 | 0.5 |
| 40歳代 | 88.1 | 88.6 | 0.5 | 70.0 | 67.0 | -3.0 | 82.2 | 81.2 | -1.0 | 39.9 | 43.6 | 3.7 |
| 50歳代 | 85.0 | 88.3 | ↗ 3.3 | 70.0 | 68.9 | -1.1 | 75.9 | 79.4 | 3.5 | 47.7 | 51.3 | 3.6 |
| 60歳代 | 79.3 | 84.1 | ↗ 4.8 | 67.5 | 65.6 | -1.9 | 70.6 | 74.1 | 3.5 | 53.3 | 56.6 | 3.3 |

N：H16 4,202、H19 4,059

* 図表中の○ は全体に比べて統計的に有意に高いことを示し、↗ は年次間で有意差があることを示している。

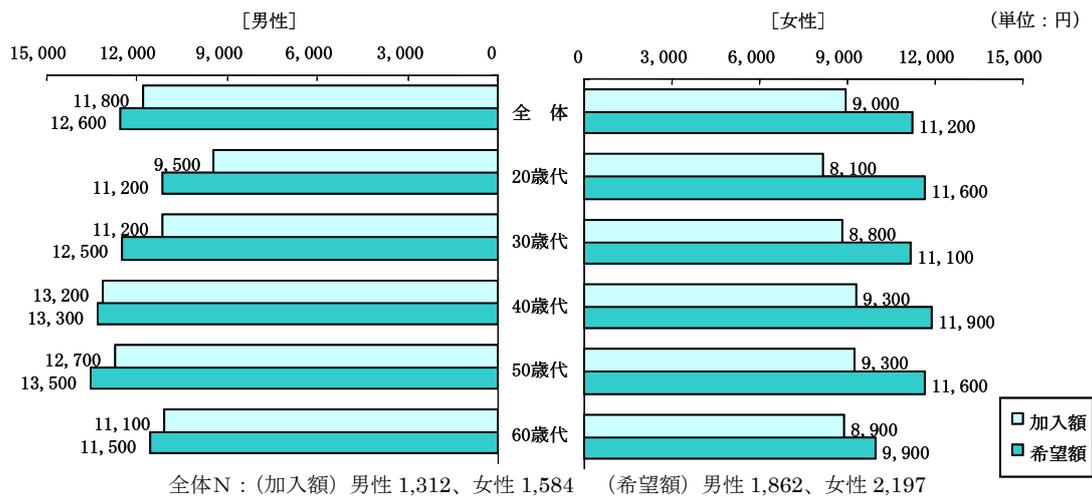
* 保障領域毎に個別に質問した結果をまとめて掲載している。

②疾病入院給付金日額の希望額は男性が12,600円、女性が11,200円

ケガや病気で入院した際の入院給付金の希望額は、男性で12,600円、女性で11,200円と1万円を超えている。これに対して、実際の加入金額は男性で11,800円、女性で9,000円と希望額を男性で800円、女性で2,200円下回っている。

年齢別にみると、希望額は男性では40～50歳代で13,000円を超え高くなっている。一方、女性では60歳代を除き大きな差はなく、いずれも11,000円台となっている。

図表6 疾病入院給付金日額の加入額と希望額



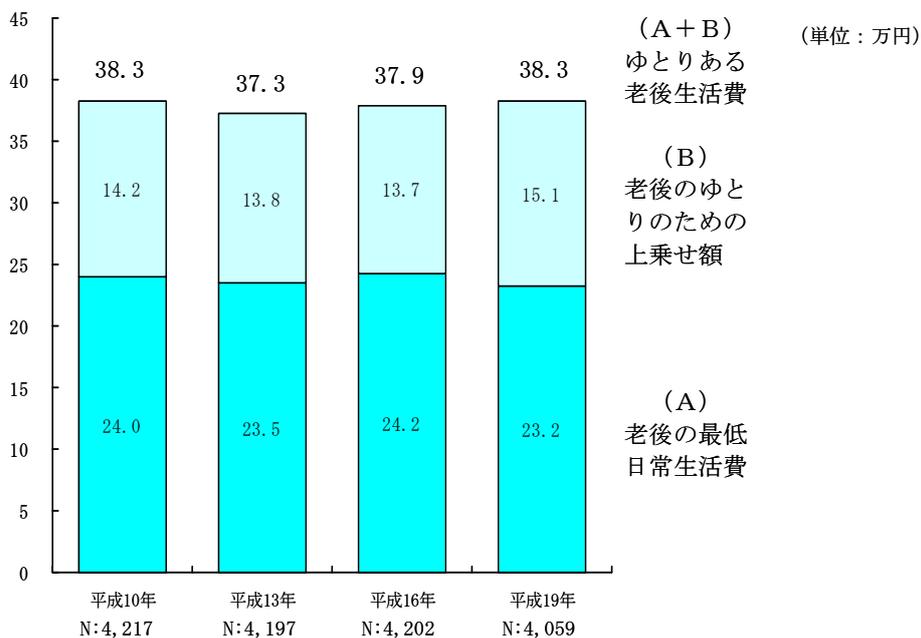
③ゆとりある老後生活費は1ヵ月あたり38.3万円

老後を夫婦2人で暮らしていく上で、必要と考える最低日常生活費は月額23.2万円と前回(24.2万円)より1.0万円減少している。

一方で、ゆとりのための上乗せ額は、今回15.1万円と前回(13.7万円)よりも1.4万円増加している。

“老後の最低日常生活費”に“老後のゆとりのための上乗せ額”を加えた「ゆとりある老後生活費」は月額38.3万円となり、前回(37.9万円)と大きな差はみられなかった。

図表7 夫婦の老後生活費の必要額(月額)

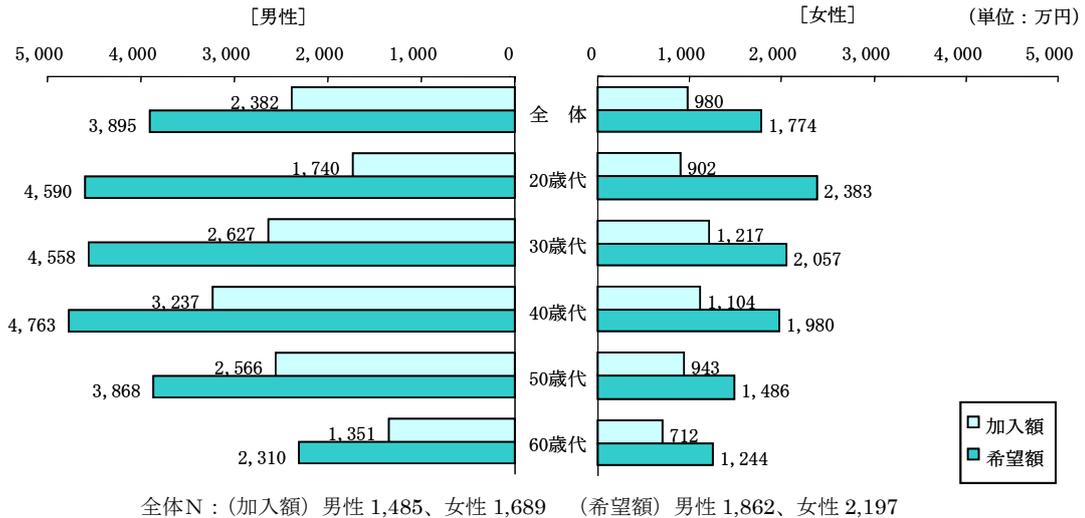


④死亡保険金の希望額は男性が3,895万円、女性が1,774万円

ケガや病気で万一の際の死亡保険金の希望額は、男性で3,895万円、女性で1,774万円となっている。これに対して、実際の加入金額は男性で2,382万円、女性で980万円と希望額を男性でおよそ1,500万円、女性でおよそ800万円下回っている。

年齢別にみると、男性では40歳代(4,763万円)、女性では20歳代(2,383万円)で希望額が最も高くなっている。

図表8 死亡保険金の加入額と希望額



⑤生活保障準備に対し「充足感なし」がいずれの保障領域においても増加

生活保障に対する経済的準備が伸展しない中、自助努力に公的保障や企業保障をあわせた現在の生活保障準備に対して「充足感なし」とした割合は、医療保障が62.7%、老後保障が76.5%、死亡保障が62.2%、介護保障が74.6%といずれも前回と比べ3ポイント以上増加している。

図表9 生活保障に対する充足感(「充足感なし」の割合)

(単位:%)

| | 医療保障 | | | 老後保障 | | | 死亡保障 | | | 介護保障 | | |
|------|-------|-------|---------|-------|--------|---------|-------|--------|---------|-------|--------|---------|
| | 平成16年 | 平成19年 | 19年-16年 | 平成16年 | 平成19年 | 19年-16年 | 平成16年 | 平成19年 | 19年-16年 | 平成16年 | 平成19年 | 19年-16年 |
| 全体 | 59.7 | 62.7 | ↗ 3.0 | 72.7 | 76.5 | ↗ 3.8 | 57.1 | 62.2 | ↗ 5.1 | 70.3 | 74.6 | ↗ 4.3 |
| 20歳代 | 54.7 | 61.9 | ↗ 7.2 | 69.7 | 73.1 | ↗ 3.4 | 58.0 | 61.5 | ↗ 3.5 | 66.0 | 68.1 | ↗ 2.1 |
| 30歳代 | 58.2 | 60.4 | ↗ 2.2 | 79.2 | (83.7) | ↗ 3.9 | 60.2 | (67.3) | ↗ 7.1 | 73.5 | 74.9 | ↗ 1.4 |
| 40歳代 | 59.3 | 61.2 | ↗ 1.9 | 78.4 | (83.7) | ↗ 5.3 | 58.4 | 65.2 | ↗ 6.8 | 74.4 | (83.2) | ↗ 8.8 |
| 50歳代 | 60.9 | 65.2 | ↗ 4.3 | 72.6 | 75.6 | ↗ 3.0 | 57.1 | 60.3 | ↗ 3.2 | 71.3 | 76.1 | ↗ 4.8 |
| 60歳代 | 62.9 | 64.7 | ↗ 1.8 | 66.2 | 68.8 | ↗ 2.6 | 53.7 | 58.9 | ↗ 5.2 | 67.2 | 70.3 | ↗ 3.1 |

N：H16 医療保障 4,055、老後保障 4,079、死亡保障 4,049、介護保障 4,015

N：H19 医療保障 4,001、老後保障 3,966、死亡保障 3,975、介護保障 3,943

*図表中の○は全体に比べて統計的に有意に高いことを示し、↗は年次間で有意差があることを示している。

*保障領域毎に個別に質問した結果をまとめて掲載している。